# 共通科目

芸術を通じてさまざまな人に多彩な学習経験をもたらし、その創造性や新しい可能性を引き出していくために
「学部共通専門教育科目」、「総合教育科目」を共通科目として用意しています。

TR テキストレポート科目　TW テキスト作品科目　TX テキスト特別科目　S スクーリング科目　GS 藝術学舎科目　WS Webスクーリング科目　選 選択科目

※下記でご紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。
※各コースの必修科目もあります。

## 学部共通専門教育科目（全学科・コース履修可）

芸術を学ぶ学生にとって基盤となる知識・見識を養うための科目群です。

| 科目名 | S/T | 必/選 | 単位数 | 単位修得試験 | 履修内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 美学概論 | TR | 選※2 | 2 | 有 | 従来「美学」と呼ばれてきたAestheticsを、その原義を採用して「感性論」と名づけ直し、いわゆる「美」や「芸術」の問題を改めて人間の経験・認識のあり方全体と関わるものとして考察する。 |
| 芸術理論1 | TR | 選※2 | 2 | 有 | 東洋の芸術理論を実際のテキストに触れながら理解し、今日的な意味を考える。 |
| 芸術理論2 | TR | 選※2 | 2 | 有 | 西洋の生み出した芸術理論の数々の古典に学びつつ、芸術についての思索を深める。 |
| 地域芸術実践1 | TX | 選 | 2 | | 地域の自然的文化的資産を生かした活動を、現地研修での経験を踏まえて考察する。 |
| 地域芸術実践2 | TX | 選 | 2 | | 現地での講義やワークショップを通じ、地域での芸術活動のありかたを考察する。 |
| 地域芸術実践3〜4（2026年度開講予定） | TX | 選 | 2 | | 展覧会やライブ開催、芸術を活かしたボランティア等、文化芸術を実践し考察する。 |
| 知的財産権研究 | TX | 選※2 | 2 | | 自らの制作や他者の作品利用にあたって不可欠な知的財産権に関する知見を培う。 |
| 芸術史講義（日本）1 | WS | 選※2 | 2 | | 日本の造形芸術について、その成立から平安時代、鎌倉時代を中心に学ぶ。 |
| 芸術史講義（日本）2 | WS | 選※2 | 2 | | 日本の造形芸術について、近世および近代の絵画・工芸を中心に学ぶ。 |
| 芸術史講義（日本）3 | WS | 選※2 | 2 | | 日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れを辿る。 |
| 芸術史講義（日本）4 | WS | 選※2 | 2 | | 江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能について学ぶ。 |
| 芸術史講義（アジア）1 | WS | 選※2 | 2 | | 中国の古代から明清時代に至るまでの芸術史を学ぶ。 |
| 芸術史講義（アジア）2 | WS | 選※2 | 2 | | 朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史を学ぶ。 |
| 芸術史講義（アジア）3 | WS | 選※2 | 2 | | 中国の文学、音楽、舞台芸術について、古代から19世紀までの流れを学ぶ。 |
| 芸術史講義（アジア）4 | WS | 選※2 | 2 | | 朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術について学ぶ。 |
| 芸術史講義（ヨーロッパ）1 | WS | 選※2 | 2 | | ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開を理解する。 |
| 芸術史講義（ヨーロッパ）2 | WS | 選※2 | 2 | | 盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの造形芸術の歴史を辿る。 |
| 芸術史講義（ヨーロッパ）3 | WS | 選※2 | 2 | | ヨーロッパの文学、音楽、舞台の歴史を古代ギリシアから18世紀まで辿る。 |
| 芸術史講義（ヨーロッパ）4 | WS | 選※2 | 2 | | 18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上演芸術作品の諸潮流を学ぶ。 |
| 芸術史講義（近現代）1 | WS | 選※2 | 2 | | 20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れを学ぶ。 |
| 芸術史講義（近現代）2 | WS | 選※2 | 2 | | アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史を学ぶ。 |
| 芸術史講義（近現代）3 | WS | 選※2 | 2 | | 19世紀末からの文学、舞台芸術の流れを社会の動きとあわせて学ぶ。 |
| 芸術史講義（近現代）4 | WS | 選※2 | 2 | | 近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷を学ぶ。 |
| 学芸専門講義1〜10※1 | GS | 選 | 各1 | | 芸術の各ジャンルの基礎的な内容に関わる講義を受ける。 |
| 学芸専門演習1〜10※1 | GS | 選 | 各1 | | 実地に基礎的水準の専門的技術を学ぶ。 |

※1「学芸専門講義1〜10」「学芸専門演習1〜10」は藝術学舎の単位連携科目です。
※2 アートライティングコース必修

# 学部共通専門教育科目[芸術教養学科履修不可]

※アートライティングコース、書画コース、イラストレーションコースにおいて、一部履修できない科目があります。

| 科目名 | S/T | 必/選 | 単位数 | 単位修得試験 | 履修内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| コラージュ・デッサン | TW | 選 | 2 | | 身近な素材を収集し、切断、組み替え、張り合わせて新たなイメージに結びつけるコラージュを体験し、さらに、そのコラージュ作品をそのまま別の平面上に鉛筆で写す(移す)ことを通して、観察力を鍛え、徹底的な描き込みの意味を考えられるようになることを目指す。 |
| 立体造形演習1<br>立体造形演習2 | TW | 選 | 各2 | | 自然の中の形に含まれている、躍動感、緊張感、バランスの美しさといったさまざまな美的要素を立体的な形の中で追求する。 |
| 色彩表現基礎 | TW | 選 | 2 | | テキストのレッスンに取り組むことで、日常の生活の中で色彩を意識し、私たちをとりまく色彩環境に鋭敏に応答していくための力を身につける。また、先生方の講義録を通じて、色彩の現場の多様さを知る。 |
| 形態表現基礎 | TW | 選 | 2 | | 芸術に携わる全ての者にとって、その制作・研究の対象となる『形』。この科目はテキストのレッスンを通して、周りの『形』を見直す。『形』とは何か？を考え、『形』を発見、観察し、自ら造形する事によって、『形』に対しての感性を養う。 |
| 写真論1<br>写真論2 | TR | 選 | 各2 | 有 | 写真というメディアの光学的・化学的な基本原理と、複製技術としての性格、そして「写真の歴史」について基本的な知識を身につける。その上で、今日の社会におけるさまざまな写真表現に触れながら、その意義と可能性を探っていく。 |
| 芸術教養基礎 | S | 選 | 1 | | 今日の芸術活動を支えているさまざまな価値観や制度は、長い歴史のなかで徐々に形をとってきたものである。本科目ではそれらの成り立ちを反省し、また芸術の問題を考える際のキーワードのいくつかの意味を考えることで、これから大学で芸術の制作や研究を行うための基礎的視座を得ることを目標としている。 |
| 著作権を学ぶ | S | 選 | 1 | | 著作権は、今やアーティスト、デザイナー、プロデューサー、研究者、つまり私たちと切っても切れないものとなっている。自ら作品や論文を作る場合にも、またそれらを守っていくためにも、著作権についての知識は必須である。この講義では、法学・法律学的な視点から「クリエイター」の権利である著作権について考える。 |
| 美学と芸術学への大きな階段 | S | 選 | 1 | | 美学や芸術学に関して、読むに値する本を選び、読み、また理解するための、基礎的な訓練を行う。単なる知識の修得ではなく、言葉や概念を正確に扱い、ものごとを根本から考える練習である。 |

# 総合教育科目（全学科・コース履修可）

幅広く「知」を育み、「技」と眼をきたえ、「地域」との関わりや取り組みへと結実させられる科目群です。

| 科目名 | S/T | 必/選 | 単位数 | 単位修得試験 | 履修内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| ことばと表現 | TR | 選 | 1 | 有 | レポートや論文など、大学で日本語を書く際の基礎を学ぶ。 |
| 論述基礎 | TR | 選 | 2 | 有 | 学術的な文章を書くための基本を学ぶ。 |
| 外国語1 | TR | 選 | 2 | 有 | 英語による自己表現の初歩を身につける。 |
| 古典日本語 | TR | 選 | 2 | 有 | 漢文・古文をあらためて学び、しっかりした日本語の教養を身につける。 |
| 情報 | TR | 選※ | 2 | 有 | 「情報」に関する総合的な教養を学ぶ。<br>※建築デザインコース必修 |
| 音楽 | TR | 選 | 2 | 有 | 演奏技術ではなく、感性と知性とを調和させるものとしての音楽を学ぶ。 |
| 地域環境論 | TR | 選 | 2 | 有 | 地域の環境を考えるための視点を獲得する。 |
| 生態学 | TR | 選 | 2 | 有 | 生物のさまざまな種のあいだの関係を特定の自然環境を例に考察する。 |
| 都市デザイン論 | TR | 選 | 2 | 有 | 都市や住環境のあり方をデザインという観点から考察する。 |
| 色彩と形 | TR | 選 | 2 | 有 | 身のまわりの素材をもとに、「かたち」と「色」のありかた、また面白さを探る。 |
| 心理学 | TR | 選 | 2 | 有 | 人間の心のはたらきを探る学問的方法について学ぶ。 |
| 政治学 | TR | 選 | 2 | 有 | 政治というアクチュアルな問題を考察する学問的方法を学ぶ。 |
| 経済学 | TR | 選 | 2 | 有 | 経済現象を理解するための考え方を学ぶ。 |
| 社会学 | TR | 選 | 2 | 有 | 人間社会の今日的状況を理解するための枠組みを考える。 |
| 宗教学 | TR | 選 | 2 | 有 | 宗教を社会的・文化的現象として捉え、それを解明するための学問的方法を学ぶ。 |
| 列島考古学 | TR | 選 | 2 | 有 | 日本列島の歴史を「モノ」を通じて考える方法について学ぶ。 |
| 日本史 | TR | 選 | 2 | 有 | 資料を通じ、先入観にとらわれず日本の歴史を考察する方法を身につける。 |
| アジア史 | TR | 選 | 2 | 有 | アジアの諸地域のあいだの相互交流と現代に至る歴史を学ぶ。 |
| 西洋史 | TR | 選 | 2 | 有 | 西洋史についての基本的な歴史的事実と今日との関係について学ぶ。 |
| 文化研究1 | TR | 選 | 2 | 有 | 「子ども」の文化や「若者組」など、近代以降に作られた心身の枠組みを考察する。 |
| 文化研究2 | TR | 選 | 2 | 有 | 第二次大戦後のさまざまな日本の大衆文化を通じて現代社会のありかたを考える。 |
| 文化研究3 | TR | 選 | 2 | 有 | 写真、映画、TVなど映像文化の起源やそれが現在の文化に及ぼす影響を考える。 |
| 京都を学ぶ | TR | 選 | 2 | 有 | 日本の文化の中で重要な地位を占める京都の文化について、成立と特色を学ぶ。 |
| 地域を探る | TR | 選 | 2 | 有 | 自分の居住地にあらためて目を配ることによって、世界を把握する手法を得る。 |
| 詩学への案内 | TR | 選 | 2 | 有 | 詩学に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察する。 |
| 哲学への案内 | TR | 選 | 2 | 有 | 哲学に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察する。 |
| 学際的な知への案内 | TR | 選 | 2 | 有 | さまざまな学問に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察する。 |
| 日本の憲法 | TR | 選 | 2 | 有 | 日本社会を作る基本法としての憲法のありかたを学ぶ。 |
| 地域環境学演習 | TX | 選 | 2 | | 自然環境の生成を学生が選択したジオパークの学習と現地観察に基づき考察する。 |
| 地域文化学演習 | TX | 選 | 2 | | 西国三十三所のいずれかを実地に踏査することで、特定地域の文化環境の成立と構造を考察する。 |

| 科目名 | S/T | 必/選 | 単位数 | 単位修得試験 | 履修内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| はじめての共通科目 | S | 選 | 1 | | 入学後、最初に学ぶ科目。本学通信教育課程で芸術を学ぶための準備的な科目である。動画教材を通じて芸術を学ぶ意味、そしてまた芸術を本学で学ぶ意味を知るとともに、共通科目(総合教育科目・学部共通専門教育科目)を大学で滞りなく学習をすすめるために、カリキュラムの考え方と科目構成、そして学習に必要なプロセスを学ぶ。 |
| 身体と表現 | S | 選 | 2 | | 本科目では、特定のジャンルの身体表現ということに限らず、普段から私たちが使っている身体が、どのようにしてさまざまな意味を表現し、伝えることができるのか、また身体を特定の型に沿って訓練することで、どのような認識が得られるのか、というようなことをいくつかの簡単な実践を通じて考える。 |
| 数と世界 | S | 選 | 2 | | 数学は難解な数式によって学ぶものだけではない。本科目では、いくつかの作業課題を通じて、身の回りの環境に潜む幾何学的な構造や数的な比例の関係を発見し、理解することによって、私たちの住む世界を数学的なものの見方、考え方によって捉える方法を身につけることを目指す。 |
| 名著を読む | S | 選 | 2 | | 時代を超えて残された名著は、概説のなかで触れられるだけではなく、熟読玩味されることで、現代における真価が発見される。本科目では名著紹介の動画を参考にしつつ、受講者が実際に古典的著作を読み、その成果を語りあうことで自らの問題意識の幅を広げる。 |
| キャリアデザインⅠ | S | 選 | 2 | | 仕事の基本(社会人基礎力、エクセル・パワーポイントの基礎)について学ぶ。 |
| キャリアデザインⅡ | S | 選 | 2 | | 就職活動に向けた具体的な取り組みについての知識・要点を学ぶ。 |
| K-POPダンス実践1 | S | 選 | 1 | | 韓国グローバルサイバー大学の提供科目。ジャズダンス、ヒップホップの背景を理解し、ダンスの多様な動きを通じて、創意性と表現力、身体能力を高めることを目指す。 |
| K-POPダンス実践2 | S | 選 | 1 | | 韓国グローバルサイバー大学の提供科目。ヒップホップの4要素について理解し、ダンスの多様な動きを通じて、創意性と表現力、身体能力を高めることを目指す。 |
| 自然を観る | WS | 選 | 2 | | 科学は自然に対する向き合い方、見方の1つの方法である。本科目では、昆虫の研究を例として科学を通して自然と向き合い、観る方法について理解することを目指す。 |
| 日本史への扉(仮称)<br>(2026年度開講予定) | WS | 選 | 2 | | 特定の時代やテーマを紹介しながら、歴史学の視方や考え方を学ぶ。 |
| キャリア表現1(仮称)<br>(2026年度開講予定) | WS | 選 | 2 | | キャリアについての基本的な考え方や芸術分野における多様なキャリアモデル(実例)を知った上で、自身の経験・ストーリーを語る技法を学ぶ。 |
| 学芸基礎講義1～10※ | GS | 選 | 各1 | | さまざまな領域の学術・芸術の講義に触れて自らの教養を養う。 |
| 学芸基礎演習1～10※ | GS | 選 | 各1 | | 実地にさまざまな学問的・芸術的方法のありかたについて学ぶ。 |

※「学芸基礎講義1～10」「学芸基礎演習1～10」は藝術学舎の単位連携科目です。

# 総合教育科目（芸術教養学科履修不可）

1年次～

| 科目名 | S/T | 必/選 | 単位数 | 単位修得試験 | 履修内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| デッサン | TW | 選 | 2 | | 芸術の学びにおいて、観察力を向上させ感覚を鍛えることは何よりも大切。それらはデッサンによって最も効果的に身につけられる。観察で得られる発見の喜びを感じながら描くことによって、その楽しさに引き込まれ、自ずと感覚の感度は高まり、世界は違って見えてくる。結果、絵も上手くなる。デッサンにより自らが変わることで、現実をリアルに実感できるようになることを目指す。 |
| デッサン<br>（野菜か果物を一つ描く）<br>（2026年度開講予定） | TW | 選 | 2 | | あらゆる芸術活動の根幹となるデッサン力。「デッサン力=見る力」である。見ることは、外界の情報を得るための窓口で、感性や思考にも大きく影響を与える大切な行為である。日常、私たちは記憶によって周囲を見てしまい、改めてより良く見ることは、ほとんど行わない。記憶を超えて、より良く見ることを観察と言う。そして、見えたものを誤魔化さずに描くことによって、観察は更に確かなものになり、観察力の向上に比例して絵は上手くなる。観察力は芸術だけでなく、すべての人の活動能力を高める。 |
| 体育・スポーツと健康<br>（仮称）<br>（2026年度開講予定） | S | 選 | 1 | | 健康づくりのための身体運動・スポーツについて講義・実践をとおして学びます。自宅でもできる筋力トレーニングやストレッチ、なじみのあるスポーツなどに取り組み、相互にコミュニケーションを図りながら、心身の健康のための知識と方法を身につけます。受講生の今後の健康づくりに対する意識と行動を高めることを目標とします。 |
| メディア論への階段 | S | 選 | 1 | | マルチメディア時代を歴史・社会的視野をもって捉え、メディア・リテラシーの意識と考え方を学ぶ。 |
| 哲学への階段 | S | 選 | 1 | | 過去の思索に学びながら、私たちが未来を構想するための原理の探求をめざす。 |
| 考古学への階段 | S | 選 | 1 | | 具体的事例を交えつつ、考古学という学問の研究方法と理論的な背景を学ぶ。 |
| 民俗学への階段 | S | 選 | 1 | | 民俗学の成り立ちから、学問的な特徴、研究手法などを学ぶ。 |
| 自然学への階段 | S | 選 | 1 | | 生物的自然とその基盤となる植生への理解から、人間と自然の関わりについて学ぶ。 |
| 都市環境への階段 | S | 選 | 1 | | 実際の都市空間に触れ、そこに潜在したり現れたりする「近代」について考える。 |
| 文学研究への階段 | S | 選 | 1 | | さまざまな文学作品が示す固有の世界観を受け取り、ものの見方を深め養う可能性を探る。 |
| 映画研究への階段 | S | 選 | 1 | | 19世紀末の映画の発明以降の技術・技法の発展、時代背景との関わり、ドキュメンタリーやドラマなどジャンルの確立といった歴史的な流れをたどるとともに、批評的な観点についても学ぶ。 |
| 社会学への階段 | S | 選 | 1 | | さまざまな人間関係とその背景にある社会問題を考察する。 |
| オンライン授業入門 | S | 選 | 1 | | 本学で学ぶために、まず知っておきたいairU（通信教育過程Webサイト）の使い方、また、オンライン授業（実技系・講義系）を受講するために必要なノウハウや、作品の撮影技術、作品データ送信方法などを身につけ、オンライン授業へ、スムーズに参加できるよう技術的な準備を整える科目である。 |
| 入門デッサン1<br>（静物1：自然物を一つ描く） | S | 選 | 1 | | 初めての方も苦手な方も腕に自信がある方も、全ての人がデッサンの基本の基本をしっかり学び、その大切さ楽しさに触れるためのスクーリング。一つの自然物に向き合い、デッサンを通して今以上に深くものを見ることを体感する。 |
| 入門デッサン2<br>（静物2：自然物と<br>人工物を描く） | S | 選 | 1 | | 何をどのように意識し、描画材をいかに扱うのかといったデッサンの基本の基本の理解を、一歩ずつ深めながら観察力を磨く。自然物と人工物に向き合い、ものとものは関係によって見えていることを知り、描くほどに見ているままのモチーフに近づける楽しさを体感する。 |
| 入門デッサン3<br>（静物3：自然物と<br>人工物のパースを描く） | S | 選 | 1 | | 全ての表現活動の基礎と言われるデッサン。デッサンの基本の基本を学ぶと同時に、その奥深さを体感。動かないモチーフ＝静物によって視点を意識し、ものを見ることの不思議さと楽しさを学ぶ。自然物とデッサンの基本とされるパースが生じる人工物に向き合う。 |
| 入門デッサン4<br>（ヌード・クロッキー） | S | 選 | 1 | | デッサン力とは、見方の工夫と言える。その工夫の仕方を、ヌードモデルのクロッキーによって体感。短時間で、何十枚と描き続けることによって、形を捉える見方の工夫を身につけ、目と手を連動させ自然な人の姿が描けるようになることを目指す。 |
| 入門デッサン5<br>（イメージのレッスン） | S | 選 | 1 | | 自由自在の表現力を目指すためのレッスン。一人一人で全く違う、目には見えない自分の記憶やイメージを描く。柔らかく発想しイメージが展開できるように、さまざまな表現方法を知り表現に幅が出せることを目指す。 |

| 科目名 | S/T | 必/選 | 単位数 | 単位修得試験 | 履修内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 伝統芸術基礎(伝統芸能) | S | 選 | 1 | | 歌舞伎について学ぶ。専門の研究者が、歌舞伎の面白さについてわかりやすく伝える。食わず嫌いの人も、こんなに面白かったのか、と「目から鱗」であるだろう。 |
| 伝統芸術基礎(文楽) | S | 選 | 1 | | 伝統的な芸能は、従来、文献または現在残っているものが鑑賞する側から取り上げられてきた。それを演じる側の人間の講義も聞き、その中から日本人のものの感じ方、考え方、表現の仕方等を探っていく。 |
| 伝統芸術基礎(茶の湯) | S | 選 | 1 | | 茶の湯は、精神的な要素が根幹となって、一面には審美的造形的な世界を持ち、一面には手前作法から茶事の喜びという美味求心の世界までが有機的に統合される世界である。その構成は、建築・庭園・絵画・墨蹟・工芸と多方面にわたる。また、大きくは、人・場所・道具の三構成からなり、主人と客との関係で手前作法が生まれてくる。茶の湯の文化とその美について学ぶ。 |
| 伝統芸術基礎(煎茶) | S | 選 | 1 | | 風雅な喫茶の楽しみは平安時代に始まるが、煎茶の遊びが地歩を固めるのは、江戸時代以降である。「煎茶は文人の余技」とも言われ、最初は画家、書家、篆刻家、陶芸家等の芸術家をはじめ詩人、文学者等に愛好され次第に独自の世界を形成し、煎茶を楽しみながら互いの才能を切磋琢磨した。もう一つの茶道として、その自由で闊達な伝統精神を継承しながら、その核になる「美味しい茶味」の技法を学ぶ。 |
| 伝統芸術基礎(落語) | S | 選 | 1 | | 落語の歴史を学習するとともに、寄席から速記(新聞・雑誌)、レコード、ラジオ、テレビ、インターネットへと、落語をめぐるメディア空間の変容が、落語の芸にいかなる影響を及ぼしてきたのか、その変遷の過程を理解することを学ぶ。 |

※「はじめての共通科目」「身体と表現」「数と世界」「名著を読む」「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」は2025年度以降芸術教養学科入学生も履修可。

2年次～

| 科目名 | S/T | 必/選 | 単位数 | 単位修得試験 | 履修内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎デッサン1<br>(風景:樹木や建物を描く) | S | 選 | 1 | | アトリエ内では味わえない光や風、湿度、においを体全体で感じ、屋外で目の前に広がる美しく複雑な風景と向き合う。うつろう光や風の中で、樹木や建物、街並みの景観をなんとか画面に見た証として、粘り強く描きこむことを目指す。 |
| 基礎デッサン2<br>(ヌード:裸婦モデルを描く) | S | 選 | 1 | | 芸術の歴史の中で、モチーフの代表格と言えるヌードモデルを描く。ポーズするモデルの緊張感と美しさを感じながら、その構造やリズム、肌に生じる陰影の美しさを時間をかけ粘り強く観察しながら、できる限り自然な人の姿として描き止めることを目指す。 |
| 基礎デッサン3<br>(コスチューム:着衣モデルを描く) | S | 選 | 1 | | 私たちが一番見慣れている人の姿。改めて見直すと、人とコスチュームが織りなす形の対比や調和の美しさを感じる。そのコスチュームモデルの顔や手の表情、布のシワの陰影の美しさなどを時間をかけ観察を深め、ありのままに自然に描くことを目指す。 |
| 基礎デッサン4<br>(植物:草花を描く) | S | 選 | 1 | | 植物が持つ繊細でありながらも、力強い生命感あふれる形。その形の複雑さ美しさを感じながら描く。観察が深まれば深まるほどに見ているままの植物の形が、見た証として画面に現れることを体感する。 |
| 基礎デッサン5<br>(イメージを自由に描く) | S | 選 | 1 | | 自分のイメージと画材や支持体との切り離せない関係を意識し、自由に制作表現ができるようになることを目指す。今まで描いたことがないぐらい大きな紙を制作し、思いっきり自由に描くことの楽しさや開放感を体感する。 |
| 基礎デッサン6<br>(顔を描く) | S | 選 | 1 | | 私たちは顔の表情から相手の考えや心を読み取る。顔から得られる情報量は多大だ。それゆえ難しいとされる顔を、「模写」と「眼から描き進める自画像」によって描けるようになることを目指す。徹底した観察と描写により、人らしい表情が画面に滲み出ることを体感する。 |